

出土した遺物

古代の遺物は、煮炊きに使用した土師器の甕や、盛付け用の須恵器の杯などが出土しています。須恵器は、地元の笹かみきゅうりょうかまで焼かれたものが多い点が地域的な特徴を表しています。

中世の遺物は、主に井戸から土師質土器、陶器、磁器などが出土しています。中世陶器は能登半島で生産された珠洲焼を主体に、笹かみ丘陵産も少量認められます。磁器は中国から輸入された高級品で、青磁の椀が一般的ですが、白磁の椀や青磁の合子など、希少な器種もわずかに出土しています。



古代の土師器・須恵器



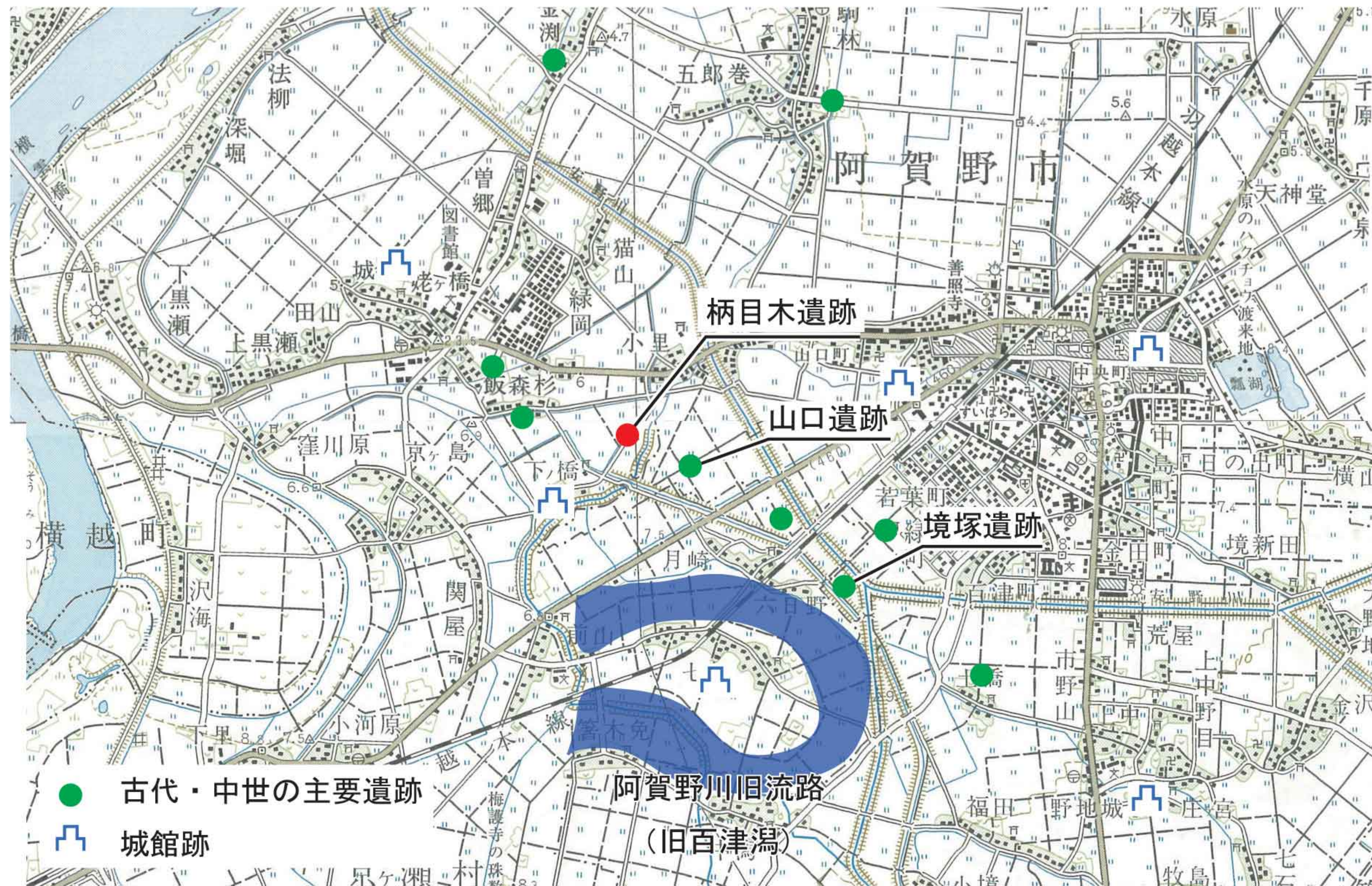
中世の輸入磁器



中世の土師質土器

周辺の遺跡

柄目木遺跡の周辺には、大型の掘立柱建物群が検出され、唐三彩が出土した山口遺跡（古代）や、旧百津潟に面した流通の拠点である境塚遺跡（中世）などがあります。柄目木遺跡は、こうした大規模な集落の周辺に立地する一般的なムラの一つであったと考えられます。



柄目木遺跡

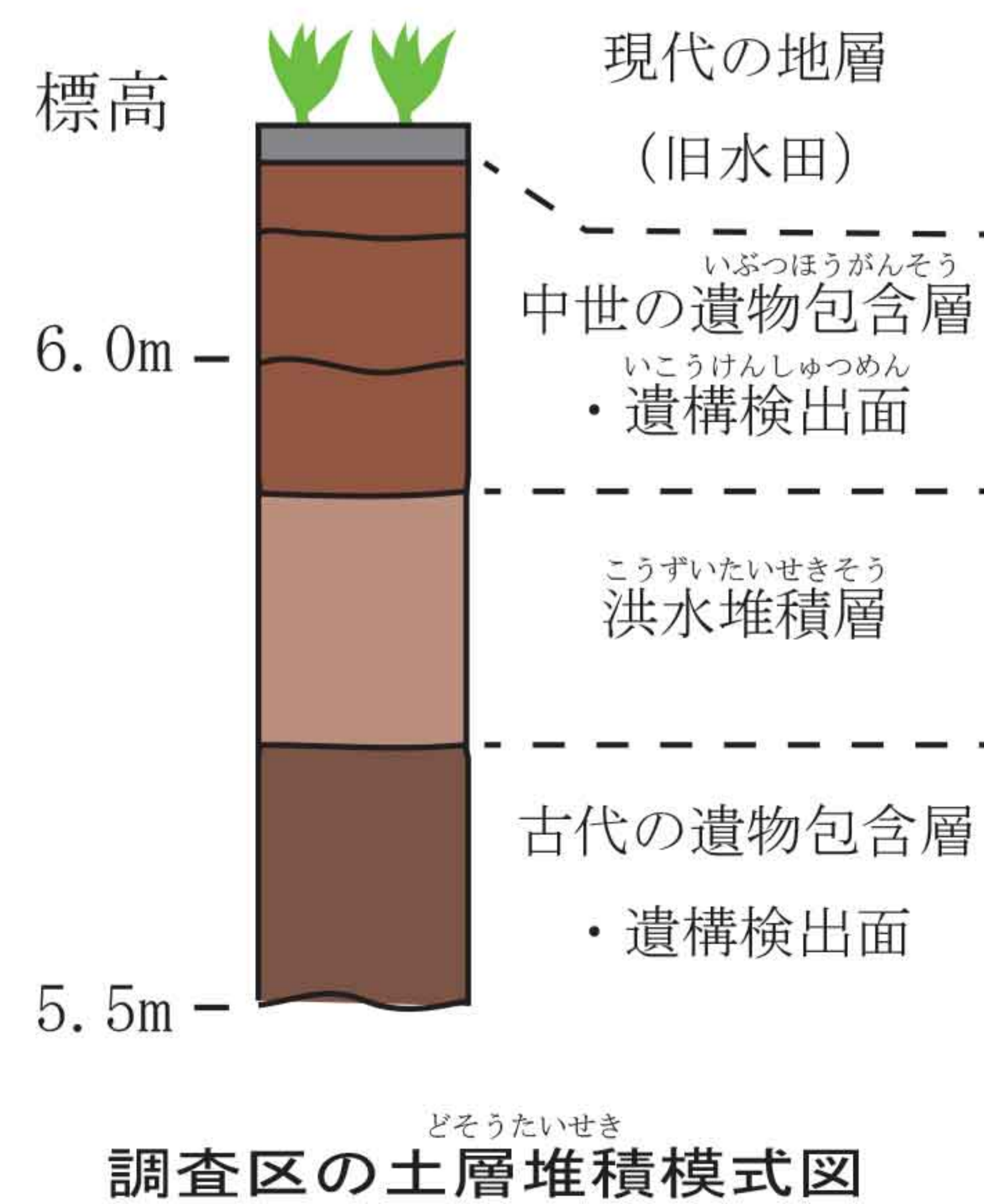
現地説明会

～阿賀野川右岸に営まれた古代・中世のムラ～



調査区から五頭連峰を望む

柄目木遺跡（阿賀野市下ノ橋字柄目木・小里字柄目木）は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地しています。国道49号阿賀野バイパスの建設に伴い2008年度から6次におたつて発掘調査を実施し、今回は最後の調査となります。調査の結果、古代（奈良・平安時代：8世紀後半～9世紀前半）と中世（鎌倉・室町時代：13世紀後半～14世紀後半）の集落跡が見つかりました。また、2つの時代の間には洪水が一带を襲ったこともわかりました。柄目木遺跡は、古代・中世の沖積地における一般的なムラの姿を示しています。



平成28年6月26日(日)
国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
新潟県教育庁文化行政課
(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団